

平成 26 年度 学校教育自己診断結果について

【総括】

前年度と同じ質問項目の総数 113 のうち 71 について肯定的評価が増加した。(保護者 23 のうち 13、生徒 39 のうち 17、教職員 51 のうち 41) 校長の学校経営計画を踏まえ、「教職員が学校全体の立場から意見交換を行い」(前年比+15.3%)、「教育活動全般にわたる評価を行って次年度の計画に生かす」(前年比+19.3) ことで組織的な学校運営がより一層機能してきていることによる。

【学習指導等】

・今年度は 5 月と 11 月を「授業改善月間」と称し、教員による相互授業参観や研究授業を行った結果「他の先生が授業を見学に来る」は前年比+5.1%となった。全教員が自教科と他教科の授業を見学し、見学対象の教員と授業について意見交換を行った。また授業アンケート結果を踏まえた教科・学年別の協議を行い、教科ごとに授業改善の方法について検討した。

・ICT 機器を活用しようとする教員が増えた結果「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」は前年比+9.9%となった。ICT 機器のさらなる活用により授業力を高めるため活用に習熟している教員による研究授業を行った。1 2 月には同窓会等の支援を受け、1・2 年生の全教室に電子黒板を導入した。今後、ICT を取り入れた授業を全校的に展開していく。

【生徒指導等】

・今年度、携帯電話・スマートホン等の校内持ち込み制限を始めた。「学校生活について先生の指導には納得できる」の生徒回答は前年比-7.7%となったが、保護者回答は+7%となり、親子で評価が分かれた。休み時間に次の授業の準備をし、生徒同士の語らいが盛んになるなどの良い結果が表れており、持ち込み制限の導入は正しかったと考える。

・昨年度来低い評価であり続けてきた「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」は、教員の努力により前年比+8.1%となった。さらなる向上のために 1 月に職員研修を行った。

【地域連携等】

・昨年同様、豊中市や岡町商店街との各種連携事業や東日本大震災の被災地支援ボランティアで始まった岩手県立大槌高等学校との交流が評価された。肯定的評価は生徒 66.6%、保護者 85.9%、教職員 91.3% と安定的であった。今後は生徒が自ら進んで事業や交流に関わるようプログラムの実施に工夫を加えることで達成感や自尊感情を高めていくことが必要である。

【学校運営】

・校長のリーダーシップの発揮により教職員の質問項目 51 のうち 41 項目で前年比向上した。

・「PDCA サイクルによる学校経営を推進している」が 67.4% (前年比+17.4%) となった。教職員の学校経営計画への理解が進んだことによる。

・サービスについての職員研修をワークショップ形式で実施することにより、「教職員の服務規律への自覚が高い」は 89.1%で、前年比+9.6%となった。100%を達成できていないことが課題である。